

ENGINEER

MPDP

ダイアリー



高崎 充弘

第64回 「OSAKA」から知財をシフトアップ！ ～「2階からビール」と「5速の壁」～



[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

知的財産推進計画(内閣府 知的財産戦略本部)では「地方と中小企業による知財活用」がここ数年来の大きなテーマの一つです。私事ですが2015～2016年には同本部の「検証・評価・企画委員会」や特許庁長官が主催される「中小企業・地域知財支援研究会」などの委員あるいはアドバイザーボードを委嘱され、中小企業経営者として意見を述べさせていただきました。そのころから地方創生の要となる中小企業を「知財活用途上型」「知財活用挑戦型」の2つのカテゴリーに分けるようになりました(本稿2016年8月号)。しかし、その後の当社の経験から、2つではなく3つのSegment(階層)に分けたほうが、中小企業の実態を把握しやすいと考えています。

1つ目は当社自身が10年以上前までそうであったような、知財に対して系統だった知識がないSegmentです。自動車のミッションで例えれば、ローギアにも入っていない状態で、いくら行政が頑張ってもエンジン(中小企業支援)の馬力を上げて自動車(知財活用)は一向に進みません。弁理士の話もまるで「2階からビール」(本稿2013年9月号)状態でチンプンカンプン。このSegmentは、日本の知財制度を俯瞰できる基礎知識を得る(ローギアに入れる)ことが重要で、知的財産管理技能検定などの活用が有効です。

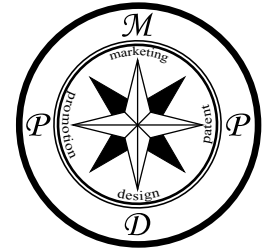
2つ目は既にローギアに入ったSegment。ここからセカンド、サード……とシフトアップしていくのですが、そこでは国や行政のさまざまな支援事業が効果を発揮します。既に知財の基本的な知識が得られており、施策に対する理解度がかなり上がっているからです。経済産業

局や商工会議所などのセミナーあるいは知財総合支援窓口を活用して最新の知識を効率的に吸収し、自律的にステップアップしていくことができます。

サード、トップまでは順調にきましたが、5速(オーバードライブ)はこれまでにない難しさと、簡単にはギアを入れることができません。眼前にグローバル知財という絶壁がそびえ立っている3つ目のSegmentです。世界の最高峰を目指すためには、より高度なスキルと装備を持ったシェルパ(支援人材)が必要なのです。

このように3つに分けて考えると、中小企業を効率的に支援するためのポイントが見えてきます。それはSegment 1(ローギアにも入っていない状態。以下、それぞれをS1、S2、S3という)とS3(5速に入らない状態)に対する施策の拡充です。当社では知的財産管理技能検定の活用によりローギアに入り、約10年をかけて少しずつシフトアップしてきましたが、数年前、海外展開局面で絶壁に直面し、前進できなくなってしまいました。そのようななか、地元OSAKAに誕生した2つの知財インフラのおかげでようやく昨年、「5速の壁」の登攀ルートが見えてきました。





ウ：「2階からビール」は知っと思ったけど、「5速（オーバードライブ）の壁」は知らなかったわ。

高：「5速の壁」は本邦初公開だよ（*^^*）。いずれも中小企業が知財を活用するために、乗り越えなければならぬ大きな障壁なんだ。

銀：中小企業を3つのSegmentに分類するっちゃうのも初めてでんな！ それぞれの割合はどれくらいでっか？

高：あくまで私見だが、S1は60～70%、S2が20～30%、S3が5～10%じゃないかな？

ウ：ちゅうことは、政府の施策はS2に効果があるゆうけど、全体のわずか4分の1ですやん。残り4分の3のS1、S3企業に対する支援策が問題ですな。

高：S1については「1社に1人、知的財産管理技能士」意識が高まれば、2階からのビールもちゃんとグラスで受けとめて、飲めるようになる（*^^*）。知財総合支援窓口やよろず支援拠点などの利用価値も高まってくる。

銀：最初は社長はんが1人で頑張ってはったけど、今じゃうちの合格者も2級5人、3級18人の合計23人でんな。合格者全員でまたビアガーデンに連れてってくださいよ！

ウ：あんた9回も受検してて、よういいまん！

銀：ふぎよぎよ！ やってまった～。（～O～）

ウ：S3については「5速の壁」をどうやって越えるかやけど、「OSAKA」の知財インフラゆうたら……。

高：INPIT近畿統括本部（INPIT-KANSAI）がちょうど1年前に発足した。グランフロント大阪での開所式に参加された宗像特許庁長官にはセレモニー後、当社にお立ち寄りいただいたね。

銀：経済産業省からインターン研修にきていただいたNさんとも再会できてうれしかったわ。（*^^*）；

ウ：INPITは（独）工業所有権情報・研修館ちゅうメツチャ

長い名前やけど、大阪の拠点では何ができまんの？

高：「知財戦略エキスパート」という大手企業の知財部出身で海外経験も豊富な専門家が4人常駐している。当社も先日グローバル知財ミックス戦略に関して有益なアドバイスをいただくことができた。中小企業にはありがたい仕組みだ。

銀：「海外知的財産プロデューサー」の大阪版でんな。わざわざ東京から来てもらうんは気が引けますけど、大阪やったらちよくちよくお願いしたいでんな？（*^^*）

ウ：大阪に来てもらうゆうたら、INPIT-KANSAIで審査官の出張面接審査ができまんな？

高：当社も先日、面接審査を行っていただいた。審査官に直接、考案技術を説明する機会は初めてだったが、とてもいい経験になった。

ウ：特許庁で使っている端末とほぼ同機能の「高度検索用端末」も設置されてまん。銀ちゃん、特許庁からインターン研修にきておられたIさんにレクチャーしてもろたみたいやから、ばっちり使えるんやろな？

銀：ふぎよぎよ～（～O～）。ほとんど忘れかけてるわ……また講習会があればいつでも参加しまっせ～。

高：「OSAKA」のもう一つの知財インフラは昨年4月に完成した大阪工業大学（OIT）梅田キャンパスだ。

ウ：梅田からのアクセス抜群やから、社会人が仕事の帰りに知的財産専門職大学院の無料公開授業を受けたり、科目等履修生になるには最適ですやん。

銀：日本知財学会の年次学術研究発表会が2018年12月に6年ぶりに大阪で開催されるらしいですな。場所はもちろんOIT！

高：「OSAKA」は大都市とはいえ一極集中している東京と比べるとやはり地方都市。INPIT-KANSAIやOITのような知財インフラが地域経済の再生・活性化のモデルになって、日本中に広がってゆけばと期待している。